

株主・投資家の皆様へ

LINTEC

WAVE

リンテックウェーブ

*Linking
your
dreams*

DECEMBER 2021

85

● 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長 服部 真
社長執行役員

● スペシャルレポート

長期ビジョンの実現に向けた
リンテックの研究開発

● LINTEC ESSAY

笑顔のために
渡辺 えり

第128期
(2022年3月期)
第2四半期
決算情報

証券コード：7966



イルリサット

世界最大の島であるグリーンランドの南西部に位置する北極圏の街。無数の氷山が海を埋め尽くす絶景で知られ、秋から春の晴れた夜には美しいオーロラを見ることができる。

目次

2 連結業績推移

3 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長
社長執行役員

服部 真

4 スペシャルレポート

長期ビジョンの実現に向けた
リンテックの研究開発

8 トピックス

9 新聞広告シリーズ

10 LINTEC ESSAY

笑顔のために 渡辺 えり

12 アンケート結果のご報告

14 決算情報

16 セグメント情報

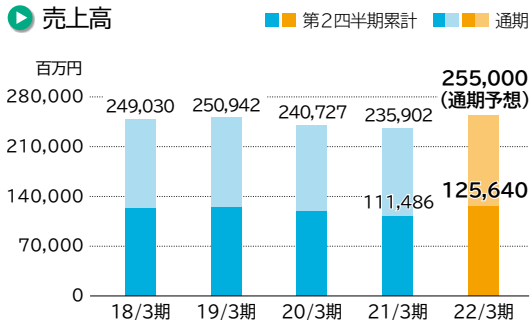
19 株式情報

(免責事項)

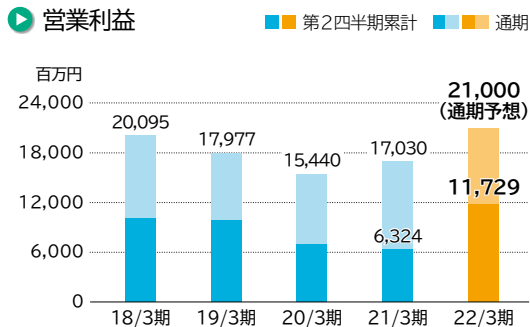
業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

連結業績推移

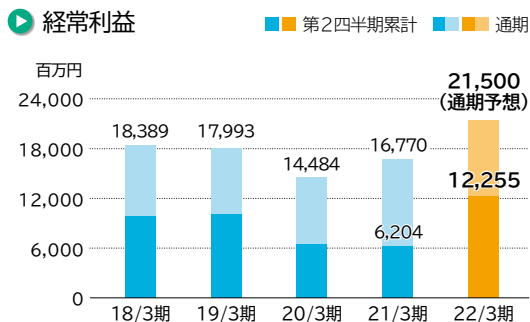
売上高



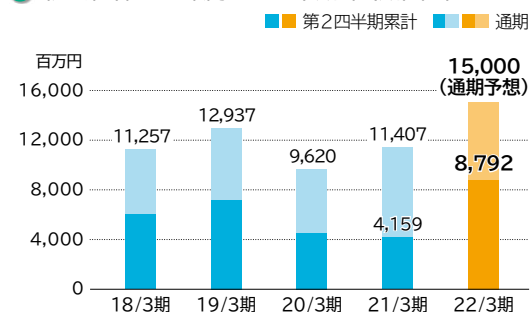
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



株主・投資家の皆様へ

▶ 2022年3月期第2四半期連結累計期間（前年同期比）

売上高

125,640 百万円（12.7%増）

営業利益

11,729 百万円（85.4%増）

経常利益

12,255 百万円（97.5%増）

親会社株主に帰属する四半期純利益

8,792 百万円（111.4%増）



代表取締役社長
社長執行役員 **服部 真**
はっとり まこと

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2022年3月期第2四半期連結累計期間の業績は、半導体・電子部品関連製品が旺盛な需要に支えられ順調に推移したことに加え、そのほかの製品についても総じて需要が回復したことにより、増収増益となりました。

今後、原燃料価格の上昇などによる調達コストの増加などが懸念されますが、上期の業績が当初の想定を大きく上回り、下期においても売り上げは引き続き堅調に推移

すると見込まれることから、通期の連結業績予想を上方修正いたしました。11期ぶりの最高業績更新や、今期からスタートした3か年中期経営計画の最終年度の経営目標を射程に捉えており、全社一丸となって修正予想の達成を目指してまいります。

なお、当社は11月8日に株主還元の充実と資本効率の向上を目的とし、来年8月末までに400万株、または120億円を上限とする自己株式の取得について発表いたしました。

株主・投資家の皆様には、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2022年3月期連結業績予想			2021年3月期
	当初予想	修正予想（増減率）	実績
売上高	2,400億円 ▶	2,550億円（6.3%増）	2,359億 2百万円
営業利益	175億円 ▶	210億円（20.0%増）	170億30百万円
経常利益	175億円 ▶	215億円（22.9%増）	167億70百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	125億円 ▶	150億円（20.0%増）	114億 7百万円

長期ビジョンの実現に向けた リンテックの研究開発

当社グループでは2030年を見据えた長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030（略称：LSV 2030）」を掲げ、その実現に向けた最初の3か年中期経営計画「LSV 2030-Stage 1」を今期から推進しています。ここではリンテックが持続的成長を遂げていくための鍵となる研究開発についてご紹介します。

リンテックグループの研究開発力

（2021年3月期）

研究開発費
76億円

売上高
研究開発費比率
3.2%

国内外
特許保有件数
4,890件

国内外
研究員数
約**220**人

研究員の海外派遣
**米国、ドイツ、
台湾、タイ**など





長期ビジョン「LSV 2030」

基本方針：イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長に向けた
新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する

重点テーマ：1. 社会的課題の解決
2. イノベーションによる企業体質の強靱化
3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

財務指標：売上高営業利益率12%以上 ROE(自己資本当期純利益率) 10%以上
(2030年3月期)

「LSV 2030-Stage 1」での研究開発方針

当社の新製品・新技術開発を統括する研究開発本部では、研究所(埼玉県)に約200人の研究員を擁し、先端の各種試験・分析機器や工場の量産設備に近い大型テスト塗工設備などを駆使して、独自の技術力を生かした機能性材料の開発に注力しています。「LSV 2030-Stage 1」においては“オンリーワン・ナンバーワンを志向する製品開発”を方針の一つに掲げ、環境問題解決に資する製品、社会と共に持続的に成長していくための製品および新事業の創出を目指しています。

■ 研究開発の主要テーマ

① 持続可能な社会への貢献

CO₂排出量の削減、
プラスチック使用量の削減 など

② 新事業の創出

資源・エネルギー、サーマル
コントロール(熱制御) など

③ 既存事業の拡大

半導体、ディスプレイ、
モビリティ(車両関連)、
食品関連 など

④ 基盤技術の深耕

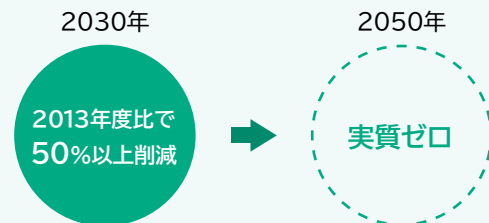
粘着応用、表面改質、
特殊紙・剥離材製造、
システム化技術 など

脱炭素への取り組み

研究開発の主要テーマの中でも特に重要なのが、持続可能な社会への貢献です。CO₂などの温室効果ガスの排出を抑える脱炭素への取り組みが世界的に広がっており、日本政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。当社グループも2030年までに2013年度比でCO₂排出量を50%以上削減し、2050年にはこれを実質ゼロにすることを目標に掲げています。

研究開発本部では、今期から“カーボンニュートラル・チャレンジ（CNC）”というスローガンの下、CO₂排出量の削減に向けた開発活動を強化しています。同時に脱プラスチックを目指し、フィルム使用量の削減やプラスチック代替素材を用いた製品開発にも積極的に取り組んでいます。

リンテックグループのCO₂排出量削減目標



CO₂排出量の削減に向けて

この10月、当本部内にCNCを含む革新的な研究開発をリードするチームを新たに立ち上げ、私がリーダーを務めることになりました。当社では粘着剤や剥離剤の塗工に石油由来の有機溶剤を使用することが多いのですが、塗工後の乾燥工程で発生するガスを燃焼処理する際に多くのCO₂が排出されることから、製品の無溶剤化が最重要



バイオマス素材を利用し、無溶剤処方で製造したシール・ラベル用粘着製品



研究開発本部 研究所
製品研究部 副部長

おの よしとも
小野 義友

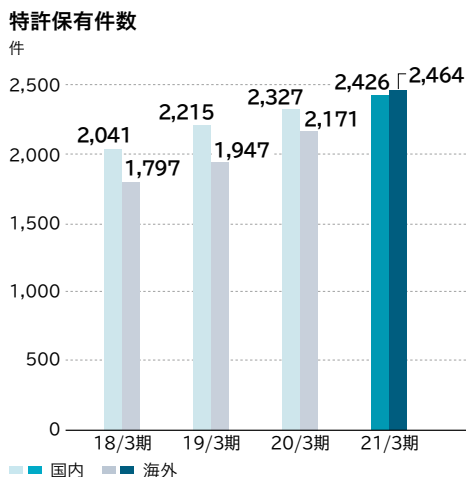
課題となります。また、当社製品の表面基材に使われるプラスチック

フィルムや粘着剤も石油由来の材料ですから、これらを植物由来のバイオマス素材や生分解性素材に転換していくことも重要です。こうした観点から、従来の素材や処方を変えながら製品性能を高める研究開発を強化しているほか、CO₂を材料にした粘着剤ができないかといったことも検討しています。脱炭素を前提に製品の高付加価値化を図ることが不可欠であり、将来的には当社製品全体を環境配慮製品と呼べるようにしていきたいと考えています。

将来を見据え、研究開発力をさらに強化していきます

研究開発本部では、持続可能な社会への貢献を使命と捉え、オンリーワン・ナンバーワンを目指した製品開発に努めています。近年好調に推移している半導体関連分野では、スマートフォンなどをはじめとする最終製品に搭載される高付加価値テープなどの開発を進めているほか、「EUV（極端紫外線）ペリクル」と呼ばれる次世代回路形成プロセス部材の開発にも取り組み、既に実用評価段階を迎えつつあります。また、主力のシール・ラベル用粘着製品や特殊紙、剥離紙の分野では、今日の脱炭素・脱プラスチックの動きを新たなビジネスチャンスとして捉え、「紙化」をキーワードとした製品開発も積極的に進めています。

さらに、将来に向けた研究開発には、AI（人工知能）などのデジタル技術の活用が重要になってきます。既に一部の製品設計や特許調査ではその利用が進んでいますが、今後、応用範囲を広げることで開発のスピードアップや画期的な新製品開発につなげていきます。また、グローバルな材料調達や製品開発を見据え、海外拠点への研究員派遣を継続的に行っていくほか、自社の基盤技術を守るための特許出願や市場拡大のための協調戦術など、知的財産戦略の強化にも注力しています。2030年、そして2050年には現在の若い研究員たちが責任を負う立場になります。その時のためにも、彼らが自由に意見を述べ、斬新なアイデアが生まれるような環境づくりをしていくことが大切だと考えています。



執行役員
研究開発本部長
みねうら よしひさ
峯浦 芳久